膜厚計用スタンド
LW-990
取扱説明書

膜厚計用スタンド LW-990は、膜厚測定時の手振れを防ぎ、より精度の高い測定を行うためのスタンドです。プローブタイプの膜厚計およびハンディタイプの膜厚計（LZ-990）に対応しています。

株式会社ケツト科学研究所

東京本社	東京都大田区南馬込1-8-1 〒143-8507	TEL(03)3776-1111 FAX(03)3772-3001
大阪支店	大阪市東淀川区東中島4-4-10 〒533-0033	TEL(06)6323-4581 FAX(06)6323-4585
札幌営業所	札幌市西区八軒一条西3-1-1 〒063-0841	TEL(011)611-9441 FAX(011)631-9866
仙台営業所	仙台市青葉区二日町2-15 二日町鹿島ビル 〒980-0802	TEL(022)215-6806 FAX(022)215-6809
名古屋営業所	名古屋市中村区名駅5-6-18 伊原ビル 〒450-0002	TEL(052)551-2629 FAX(052)561-5677
九州営業所	佐賀県鳥栖市布津原町14-1 布津原ビル 〒841-0053	TEL(0942)84-9011 FAX(0942)84-9012

●URL http://www.kett.co.jp/ ●E-mail sales@kett.co.jp

その他の機能

■ レバーの付け替え

出荷時は左側に取付けてありますが、左右どちらでも取付けできます。使用状況に応じて付け替えてください。

（1）レバー根元（内側）のボルトをゆるし、レバーとワッシャーを外します。

（2）外したレバーとワッシャーを反対側の軸へ差込み、ボルトで固定します。

■ クーゴルクリップ

プローブタイプのセンサーを使用の場合は、付属のクーゴルクリップを使用すると、クーゴルを固定することができます。

〈クーゴルクリップ使用例〉

（1）クーゴルクリップ裏面のシールをはがします。

（2）クーゴルクリップをお好みの位置に貼り付けて、クーゴルを固定します。

■ シャフト台

測定対象物が円柱状の場合は、付属のシャフト台を使用すると、測定しやすくなります。

（1）使用しているスチーシのボルト（4本）を外して、スチーシを取ります。

（2）付属のシャフト台を使用目的に合わせて位置を調整し、付属のボルトで固定します。

＊測定対象物が小さい場合、スチーシに直接シャフト台を取付けることができます。

メンテナンス

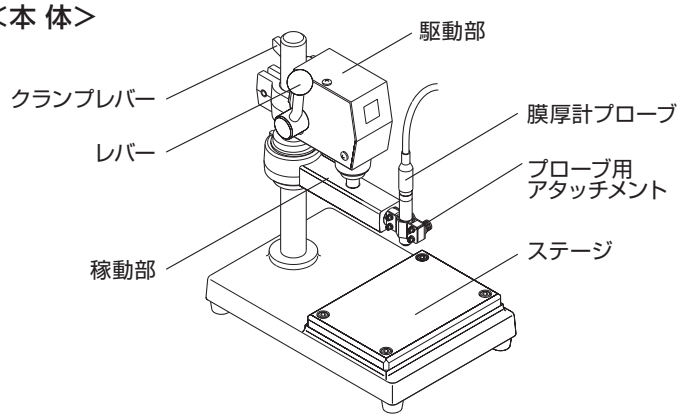
防錆・潤滑のため、摺動部には定期的に油を差してください。

1212・AI・0202・100

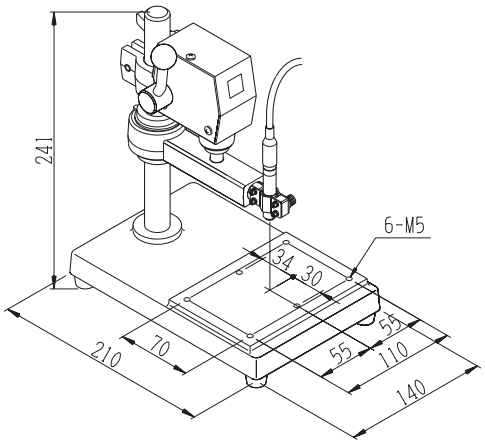
各部の名称

LE-200Jのプローブを取付けた例図です。膜厚計プローブは本製品には付属されていません。

<本 体>



<寸 法>



仕　様

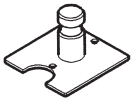
■ 寸法・質量
150(W)×210(D)×280(H)mm、2.5kg

■ 対応センサ
プローブタイプ：LEPおよびLHP-20/20C/30/30C/J
ハンディタイプ：LZ-990

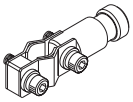
■ 付属品
ネジ×2、LZ-990用アタッチメント、ケーブルクリップ、
プローブ用アタッチメント、シャフト台、ボルト、
六角レンチ×2、付属品ケース、取扱説明書

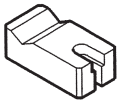
付 属 品

ネジ ×2
(LZ-990 用アタッチメント)


LZ-990 用アタッチメント

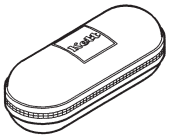
ケーブルクリップ

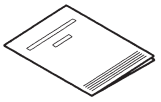

プローブ用アタッチメント


シャフト台

ボルト
(シャフト台固定用)

六角レンチ ×2


付属品ケース


取扱説明書
(本紙)

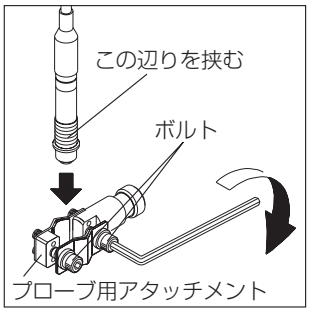
膜厚計のセット

(1) プローブ用アタッチメントまたはLZ-990用アタッチメントに膜厚計をセットします。

《 プローブタイプの場合 》

ボルトを緩め、プローブが通るように隙間を空けます。プローブを差し込み、ボルトを締めて固定します。

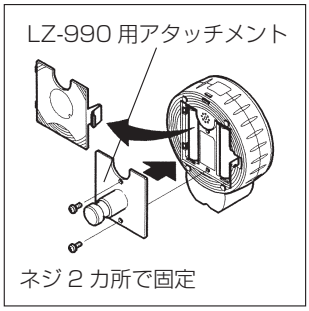
＊プローブを挟む位置は、測定時に指でつまむ部分が目安です。プローブの種類により、挟む位置が異なります。



ご注意 ＊ボルトをきつく締めすぎると、プローブの動きが悪くなります。きつく締めすぎないように注意してください。

《 LZ-990の場合 》

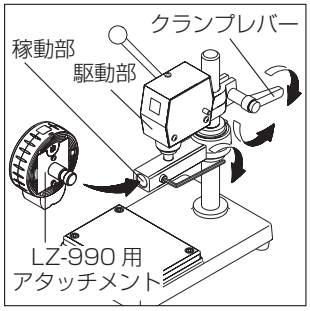
膜厚計LZ-990の背面の電池蓋を外します。外した電池蓋の所に、LZ-990用アタッチメントをセットして、ネジ(2カ所)を締めて固定します。



(2) プローブ用アタッチメントまたはLZ-990用アタッチメントを稼動部の先端に差し込み、ボルトを締めて固定します。

(3) クランプレバーを緩めて駆動部の高さ調整を行い、クランプレバーを締めて駆動部を固定します。

〈 LZ-990 使用例 〉



ご注意 ＊高さ調整を行うときは、駆動部を落とさないように注意してください。

測　定

(1) レバーを引き上げ、ステージに測定対象物を置きます。

(2) レバーを静かに下ろします。

ご注意 ＊レバーを急激に下ろすと、衝突によって膜厚計が故障する可能性があります。

(3) 各膜厚計の取扱説明書を参照して測定を行います。